

施設構成について/敷地利用について



令和7年11月
有田町 学校教育課

01

既存中学校の施設構成

02

新設中学校の施設構成

03

歴史と文化の森公園

04

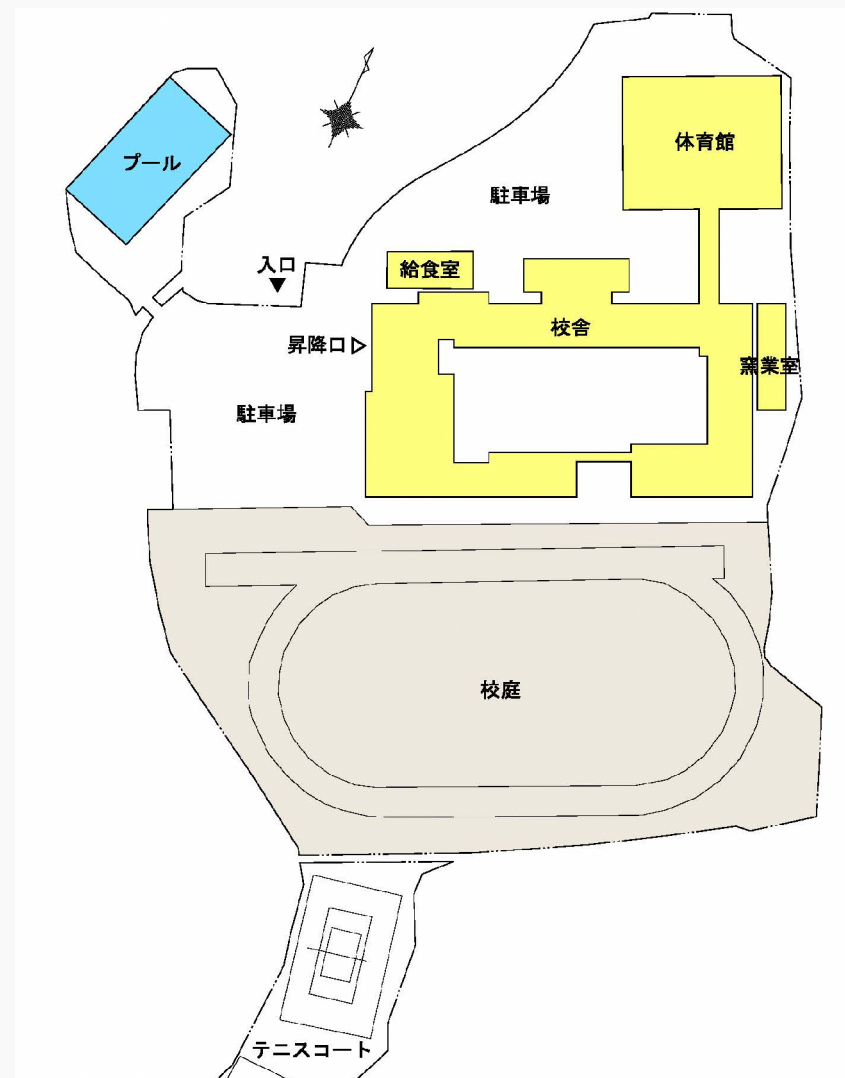
敷地利用について

既存中学校の施設

有田中学校 概要

所在地	岩谷川内三丁目6番1号
敷地面積	約30,000㎡
校舎 床面積	約7,300㎡
体育館 床面積	約2,600㎡
校舎 階数	4階建て
開校当初の普通教室数	18教室
現在の普通教室数	7教室
現在の特別支援教室数	3教室
現在の通級学級数	1教室
主な保有施設	校舎 体育館・剣道場・柔道場 グラウンド（推定300mトラック） テニスコート2面 プール（25m） 給食室 窯業室 部室

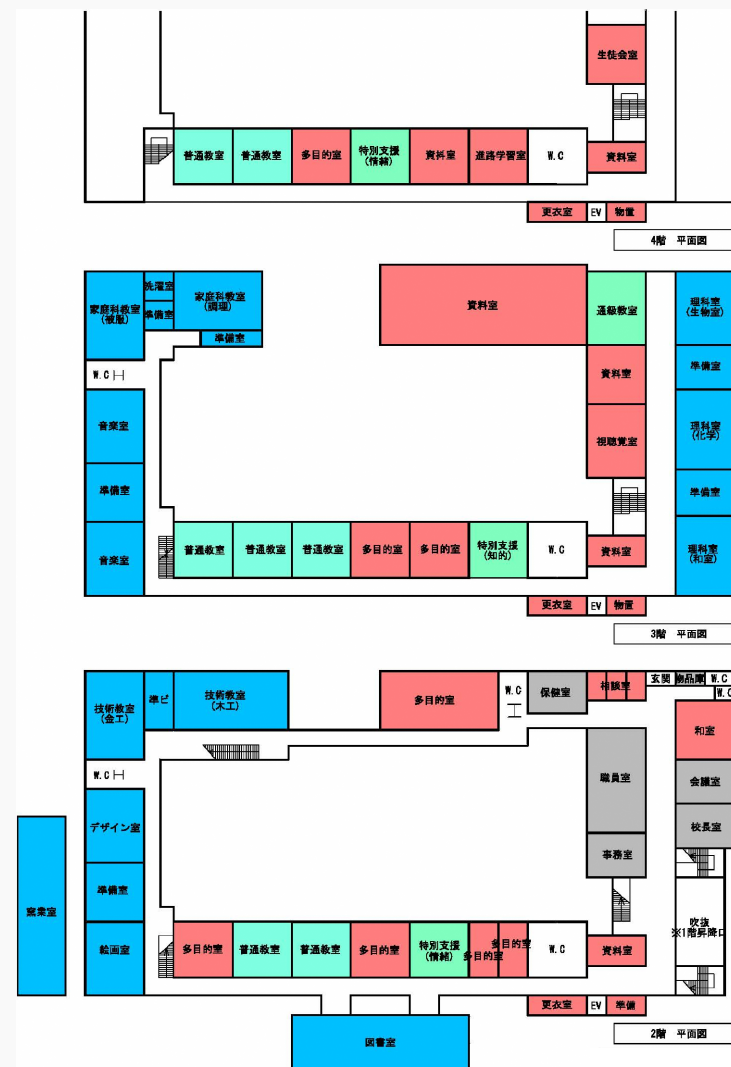
※一部数値は推測値による



既存中学校の施設

有田中学校 教室の内訳

普通教室	普通・特別・通級	11室
特別教室	理科室	3室+準備室
	音楽室	2室+準備室
	家庭科室	2室+準備室
	図書室	1室+準備室
	技術室	2室+準備室
	美術室	2室+準備室
	視聴覚室	1室
管理諸室	職員室、校長室、保健室、会議室、放送室、職員用トイレ	各1室
その他諸室	多目的室	7室
	相談室	3室
	進路学習室	1室
	生徒会室	1室
	和室	1室

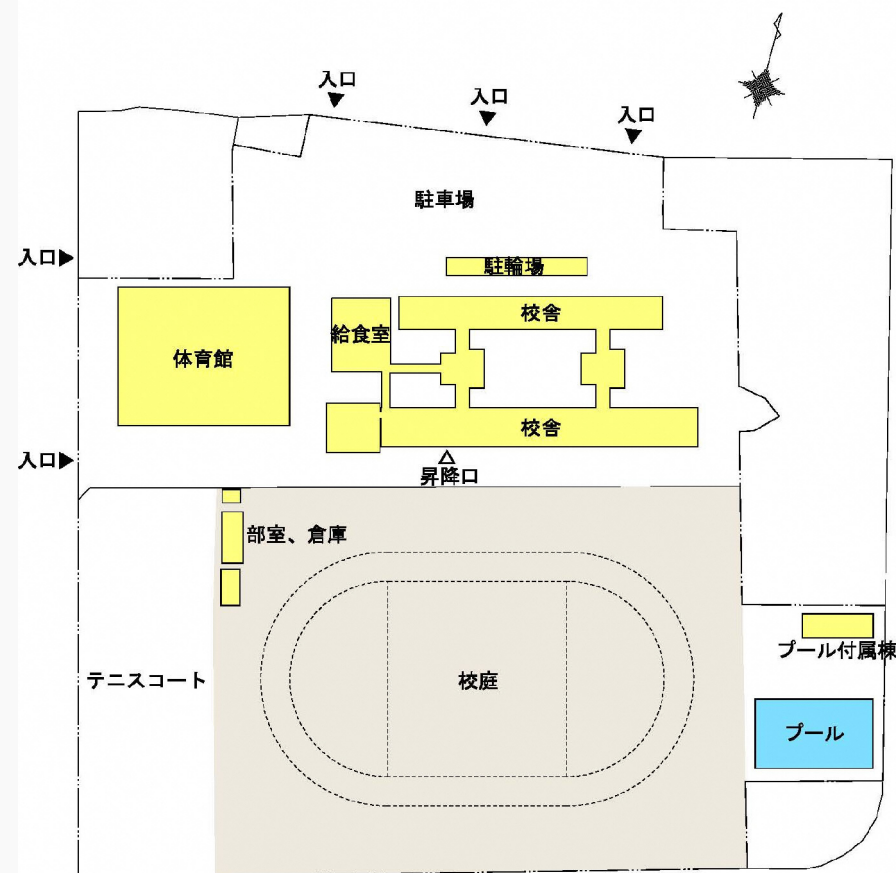


既存中学校の施設

西有田中学校 概要

所在地	立部甲74番地
敷地面積	約32,000㎡
校舎 床面積	約3,630㎡
体育館 床面積	約1,400㎡
校舎 階数	2階建て
開校当初の普通教室数	14教室
現在の普通教室数	7教室
現在の特別支援教室数	5教室
現在の通級学級数	1教室
主な保有施設	校舎 体育館 グラウンド（推定250mトラック） テニスコート 2面 プール（25m） 給食室 部室

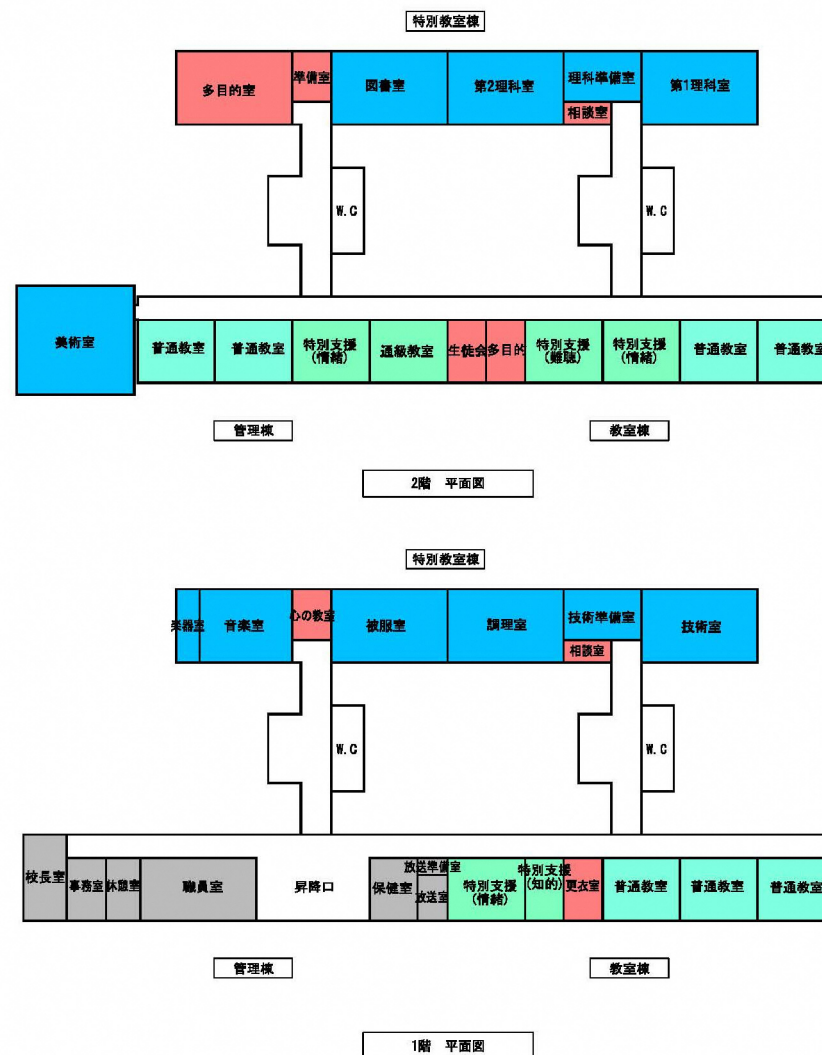
※一部数値は推測値による



既存中学校の施設

西有田中学校 教室の内訳

普通教室	普通・特別・通級	13室
特別教室	理科室	2室+準備室
	音楽室	1室+準備室
	家庭科室	2室+準備室
	図書室	1室+準備室
	技術室	1室+準備室
	美術室	1室
管理諸室	職員室、校長室、保健室、会議室、放送室、事務室	各1室
その他諸室	多目的室	2室
	相談室	2室
	心の教室	1室
	生徒会室	1室
	和室	1室



両中学校の比較

● 有田中学校・西有田中学校 概要の比較

	有田中学校	西有田中学校
敷地面積	約30,000㎡	約32,000㎡
校舎 床面積	約7,300㎡	約3,630㎡
体育館 床面積	約2,600㎡	約1,400㎡
階数	4階建て	2階建て
開校当初の普通教室数	18教室	14教室
現在の普通教室数	7教室	7教室
現在の特別支援教室数	3教室	5教室
現在の通級学級数	1教室	1教室
主な保有施設	校舎 体育館・剣道場・柔道場 グラウンド（約150m×90m 推定300mトラック） テニスコート 2面 プール（25m） 給食室 窯業室 部室	校舎 体育館 グラウンド（約125m×100m 推定250mトラック） テニスコート 2面 プール（25m） 給食室 部室

両中学校の比較



有田中学校・西有田中学校 教室の内訳の比較

	有田中学校		西有田中学校	
普通教室	普通・特別・通級	11室	普通・特別・通級	13室
特別教室	理科室	3室+準備室	理科室	2室+準備室
	音楽室	2室+準備室	音楽室	1室+準備室
	家庭科室	2室+準備室	家庭科室	2室+準備室
	図書室	1室+準備室	図書室	1室+準備室
	技術室	2室+準備室	技術室	1室+準備室
	美術室	2室+準備室	美術室	1室
	視聴覚室	1室		
管理諸室	職員室、校長室、保健室、会議室、放送室、職員用トイレ	各1室	職員室、校長室、保健室、会議室、放送室、事務室	各1室
その他諸室	多目的室	7室	多目的室	2室
	相談室	3室	相談室	2室
	進路学習室	1室	心の教室	1室
	生徒会室	1室	生徒会室	1室
	和室	1室	和室	1室

新設中学校の施設構成

◎ 今後必要な施設の取捨選択における視点

統合後の生徒数に見合った施設規模・空間計画

生徒数が年々減少している現状では、必要以上に広い校舎や多すぎる教室は過剰設計となってしまう可能性がある。

教育活動の多様化への対応力

個別指導やグループ学習など、教育内容が多様化する中で、特定用途に限定しない共用スペースの確保は重要である。多目的室や可動式間仕切りによる柔軟な空間構成が、多彩な教育活動を支える。

維持管理・運用コストの最適化

施設の維持費、補修費、光熱費が学校経営に影響を及ぼすため、利用機会の少ない施設や特殊施設は廃止や縮小を検討し、経費削減につなげることが重要である。

地域資源との連携・効率的な施設利用

学校固有の施設だけでなく、地域の既存施設との連携・共用を前提とすることで、重複した整備を避け、限られた財源を有効活用できる。

部活動の選択肢の拡大

アンケートでは統合によって生徒数が増えることで、部活動の選択肢が増えることを要望する意見がある。統廃合により、既存の施設では対応しきれなかった部活動への対応力を高めることも重要である。

新設中学校の施設構成

● 新設中学校で設ける主な施設の方針

体育館

入学式などの式典の場や、避難施設としての機能を持つ施設として重要な施設である。

剣道場・柔道場

有田中学校では体育館内に設置されていた。体育館の高層化により整備コスト増大につながる点も考慮すべきであるが、一方で部活動の充実という観点からも検討が必要である。

グラウンド

生徒の健康的な活動を促すには必須であるが、公園の範囲をなるべく残すことも考慮する。

テニスコート

部活動や体育授業の多様性にも配慮の上、検討が必要である。

プール

維持管理コストが高いこと、年間を通じて使用されるのは限られた期間であり、施設の稼働率が低いため町内の既存施設を活用することも視野に入れる。

給食室

安全な食事を提供するとともに、地元食材や郷土料理など、地域らしさを感じられる食の体験の場としても重要である。

窯業室

地域の特性が非常によく表れた施設ではあるが、運用には専門的な知識や技術が求められることから維持が難しいため、作品製作は町内の既存施設の協力依頼することも視野に入れる。

部室

生徒の自主性や交流、活動の充実につなげる施設である。

各特別教室等

各校での現在の使用状況を踏まえて、適正な規模を今後検討する必要がある。

現在の歴史と文化の森公園

◎ 有田都市計画における位置づけ

- ✓ 日本の磁器発祥の地としての史跡の保全と活用を図る広域的な公園
- ✓ 本区域の広域的な公園としての機能の充実を図る
- ✓ 窯業の伝統を伝え、豊かな自然的環境と調和した自然・レクリエーションの拠点



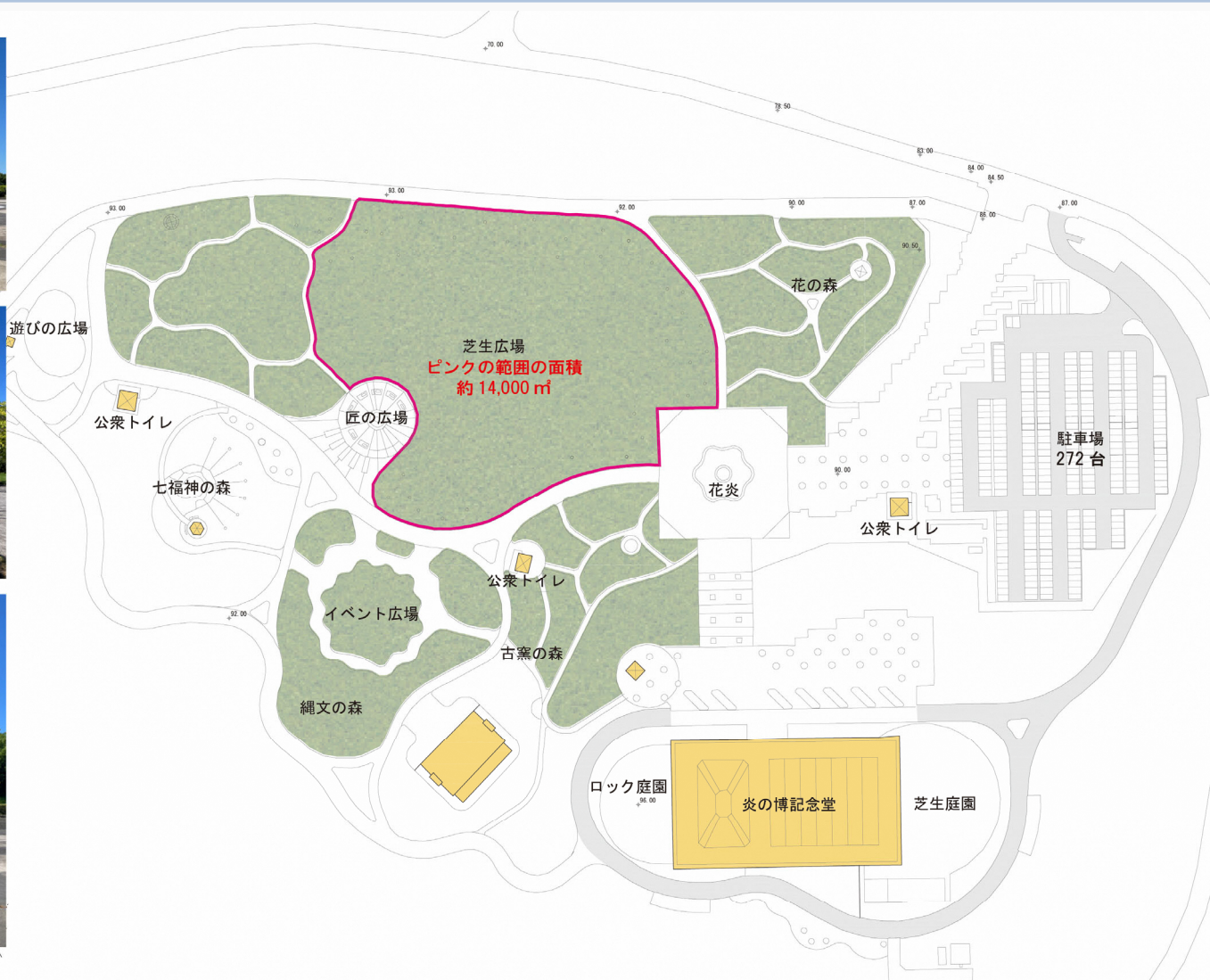
災害時の避難地や、日常生活における住民の身近なレクリエーションの場

現在の歴史と文化の森公園

● 歴史と文化の森公園の概要

- 1996年（平成8年）の**世界炎の博覧会**のメイン会場となった公園。
- **有田、西有田の歴史と文化のシンボル**として炎の博記念堂が整備された。
- 噴水広場には、故岡本太郎氏の遺作となったモニュメント「**花炎**」が設置されている。
- 広大な芝生広場、冒険の森、憩いの広場、花の森、匠の広場などのゾーン分けがされている。
- 公園内のモニュメントや水飲み場等には**有田焼**が多く取り入れられており、**地域の文化を体感**できる。
- 炎の博記念堂はクラシックなどのアコースティックな音楽に最適な**文化ホール**と、多目的に使用できる**コンベンションホール**を併設。
- 公園の開園時間 午前7時 ～午後7時（3月1日～9月30日）
 午前7時30分～午後6時（10月1日～2月末日）
- 炎の博記念堂の開館時間 午前9時～午後10時

現在の歴史と文化の森公園



学校配置の検討 案-1

案-1 北側寄せ案



学校配置の検討 案-2

案-2 西側寄せ案



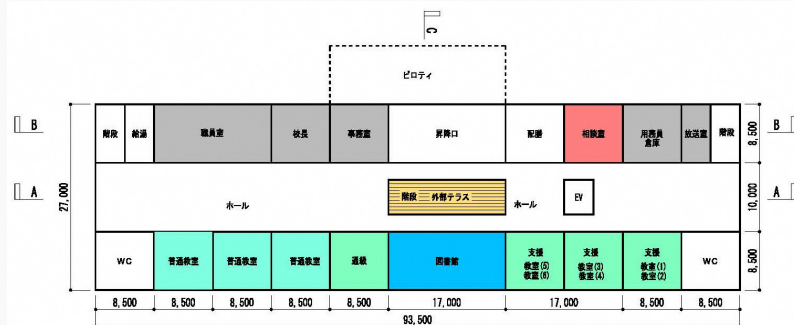
学校配置の検討 比較

● メリット・デメリットのまとめ

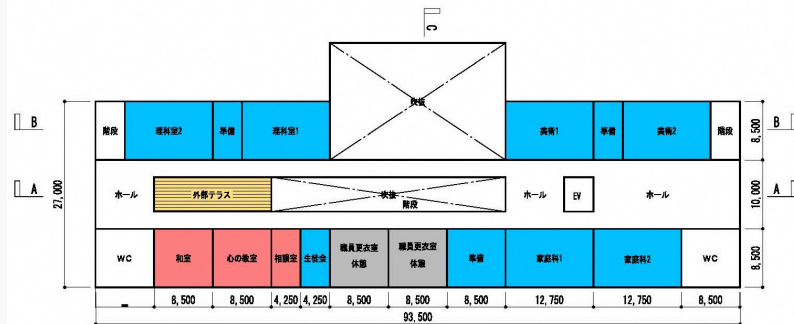
		メリット	デメリット
案1 北側寄せ案		○ 学校エリアと公園エリアが広範囲で面するため、中学校の活動や賑わい感が公園全体に伝わりやすい。	× 駐車場から新たに整備する芝生の広場までの距離が遠くなる。 →解決策：駐車場を拡張し、距離の遠さを解消。
		○ 公園の園路の形をある程度残せるため、各種広場がしっかり残しやすく、再整備が容易で、スケートボードなどのアーバンスポーツ施設の整備や、ドッグランの整備など、公園の利用者の幅を広げる工夫がしやすい。	× 既存の芝生の広場の全域が学校のエリアになってしまう。 →解決策：芝生の広場は新たに南側に整備。 ゾーニングを明確にすることで、異なる年齢層の子供たちが安全に使えるようにする。
		○ 公園の出入り口から先は、歩行者と車両の動線が交錯しない。	× 学校と公園が面する範囲が大きいため、セキュリティの確保が課題。
		○ 昇降口前が広く、グラウンドへのアクセスが容易で、生徒の活発な活動につながる。	
		○ 公園と学校の駐車場のエリアがまとまっているため、イベント時などに一体利用しやすい。	
案2 西側寄せ案		○ 敷地の形状が良いため、トラック周長を、西有田中学校と同程度の大きさを確保できる。	× 歩行者の動線と給食室への車両の動線が交錯する。
		○ 既存の芝生の広場を半分程度は残すことが可能。	× 学校入口まで歩行者と車両が並走するため、歩道の整備など安全対策が必要。
		○ 芝生広場と駐車場の関係は変わらない。	× 昇降口からグラウンドまでの経路がやや狭く、イベント時などの集団での移動に適さない。
		○ 校舎とグラウンドがほぼ正対するため、校舎から全体が見渡せる。	× グラウンドが昇降口の反対側であるため、休憩時間中の軽い運動利用での利便性が低い。
		○ 学校エリアと公園エリアが明確に分離するため、防犯上は有利である。	× 昇降口から炎の博記念館へのアクセス性がやや劣る。 × 公園入口から昇降口までの距離が長い。 × 校庭がハザードマップの災害エリアに近くなる。(近いものの、範囲外) × 学校を公園の園路に沿わない形で配置することになるので、残る公園の形が、有効活用の観点からはあまり良くない

学校配置の検討

参考平面図(中廊下タイプ)

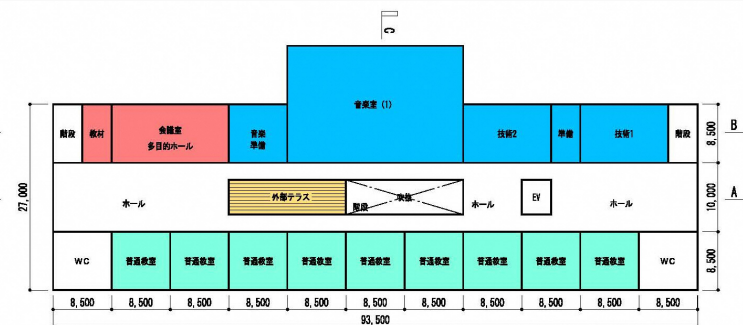


1階 平面図 2525-85=2440㎡



2階 平面図 2741-170=2571㎡

3階 平面図 2307-255=2052㎡



A-A 断面イメージ



B-B 断面イメージ



C-C 断面イメージ